

実践報告：日本語教科書『げんき』と『まるごと』比較 Comparison of Japanese Textbooks “Genki” and “Marugoto”

岩田園美コンスル，マクマスター大学
Sonomi Iwata-Consul, McMaster University

1. はじめに

テクノロジーの進化によって、日本語の授業も進化してきた。インターネットでカナダに住みながら日本に住む日本人と直接コミュニケーションがとれるようになってきた。それに伴い、日本語教育の中でも、さまざまな変化がみられるようになった。グローバル化する社会の下で、SNSやYouTubeなどを通して、異文化に触れあう機会が増え、これまでの文型シラバスからCEFR行動中心主義が取り入れられるようになり、国際交流の場が人々の相互理解につながるように『まるごと 日本のことばと文化』という教科書が国際交流基金によって開発された。

本校では、日本語の授業の教科書として文型中心コミュニカティブアプローチの『げんき』を約3年間使用した後に行動中心アプローチの『まるごと（りかい）』に変更した。文型シラバスでは、まず最初に単語や文型を頭に入れ、それを練習し、最後に実際に使ってみるという学習順序になっているが、行動中心アプローチでは、SNSでまず最初に使う、それから、フィードバックを参考に練習する、そして最後に頭に入れるという逆の学習順序で日本語を学ぶ。

今発表では、まずは、『げんき』と『まるごと』を比較分析し、長所と短所をそれぞれあげる。次に学習者のフィードバックを比較する。学習者のフィードバックは、その目的や動機によって、違ったが、『まるごと』を使用した学習者の方が、学習者にとっての負担が少ない上に、学習意欲が高まるという利点があることがわかった。さらに、注目に値する変化として、教科書を『げんき』から『まるごと』に変えたことで、コースを途中でやめる登録辞退者が著しく減ったことがあげられる。

2. 本校での使用教科書の推移

本校では、初級者と中級者のための2つのコースがある。中級といっても厳密に言えば、カナダの初級の後半レベルにあたる。両コースの教室での学習時間は1学期（9月から12月まで）が75時間（3時間 X 25週）で、2学期あるので、合計150時間となる。2016年5月から2018年4月までは、初級者コースでは『げんき I』、中級者コースでは『げんき II』を使用した。2018年5月から2021年4月までは、初級コースでは、『まるごと（りかい）入門 A1』と『まるごと初級 1A2 の前半』、中級コースでは、『まるごと（りかい）初級 1A2（後半）』と『まるごと初級 2 A2』を使用。2021年5月の初級コースでは『いろどり入門』を使用し、9月からの中級コースでは、『いろどり初級』を使用する予定。

	初級コース	中級コース
2016年5月~2018年4月	げんきI	げんきII
2018年5月~2021年4月	まるごと（りかい）入門 A1 & 初級1 A2（前半）	まるごと（りかい）初級1A2（後半）&初級2 A2
2021年5月~現在	いんどり入門	いんどり初級

3. 各教科書の比較

まずは、『げんき』と『まるごと』の目標、そして、CEFR レベルと学習所要時間を比較したい。

3.1 目標の比較

『げんき』と『まるごと』の目標（基本理念）をそれぞれのウェブサイトから引用しながら、比較する。

『初級日本語 げんき』は初めて日本語を学ぶ人のための教材です。日本語の4技能（聞く・話す・読む・書く）を伸ばし、総合的な日本語能力を高めることができます。『げんき』第1巻の修了時には日本語能力試験N5あるいはCEFRのA1レベル程度、第2巻の修了時にはN4あるいはCEFRのA2程度の日本語力がついていることが期待されます。『げんき』は、〈会話・文法編〉と〈読み書き編〉の2つのセクションに大きく分かれています。

会話・文法編

文法を学び、語彙を増やしながら、話す力と聞く力を養います。

読み書き編

ひらがな・カタカナ・漢字を学びながら、読む力と書く力を伸ばします。

「げんき第3版のご紹介」より

このように、文型中心コミュニケーションアプローチの『げんき』の目標は、会話・文法編では、「文法を学び、語彙を増やしながら、話す力と聞く力を養う」こと、読み書き編では、「ひらがな・カタカナ・漢字を学びながら、読む力と書く力を伸ばす」ことで、最終的には「日本語の4技能（聞く・話す・読む・書く）を伸ばし、総合的な日本語能力を高めること」となっている。

『まるごと』では、実際に日本語を使ってコミュニケーションすることを目標にしています。ただ文法や文型の知識を増やすことが目標ではありません。どんな場面でどんなことができるようになるか、という「Can-do」を目標にして、現実の場面で使える日本語を学びます。例えば、日本語を始めたばかりの「入門」レベルでは、あいさつをしたり、好きな食べ物や

趣味について話したりしながら、簡単なコミュニケーションをします。「中級」レベルでは、生の日本語を読んだり聞いたりしながら、自分のことを長く話せるように練習します。どのレベルでも、人と人が日本語で実際にコミュニケーションしながら、お互いに理解し合うことを目指しています。

「『まるごと』って？」より

一方、『まるごと』の目標は、ただ文法や文型の知識を増やすことではなく、「実際に日本語を使ってコミュニケーションすること」であり、「どんな場面でどんなことができるようになるか、という「Can-do」を目標にして、現実の場面で使える日本語を学べるようになっていく。また、「どのレベルでも、人と人が日本語で実際にコミュニケーションしながら、お互いに理解し合うこと」を目指す。

3.2 CEFR レベルと学習所要時間の比較

上述の通り、「『げんき』第1巻の修了時には日本語能力試験 N5 あるいは CEFR の A1 レベル程度、第2巻の修了時には N4 あるいは CEFR の A2 程度の日本語力がついていることが期待」される。第1巻が382ページ、第2巻が383ページとややずっしりと厚めの教科書だ。各課学習所要時間は、会話文法編が6時間と読書編が3時間の合計9時間とされている。23課終了までに要する時間は200時間となっている。本校では、通常、週3時間の授業が1学期に試験を除いて12回しかなく(3時間×12回=36時間)、秋、冬の1年生の通年(2学期)のコースでも72時間となる。その時間内で、げんきIを終えるのは難しかった。一応、2年目で23課まで終了したが、かなりのスピードで教えなければならなかった。『げんき』の指導要綱には、時間が足りない場合は、学習者に文法や読解を自習させるようにと書かれていたが、そうすると、必ずやってこない学習者が出て、どんどんと落ちこぼれていく。さらに、『げんき』はワークブックもあり、本校では、こちらを宿題としていたので、その上、文法や読解まで自習するとなると、学習者にとってはかなりの負担となっただろう。

『まるごと』は、入門、初級1、初級2、初中級、中級1、中級2と分かれていて、各教科書が約200ページと日本語の教科書としては薄くなっている。入門と初級1がCEFRのA1レベル程度、初級2と初中級の一部がCEFRのA2程度とされている。本校では、授業時間数の関係から、入門、初級1、初級2までしか使用できなかった。各レベルは18課に分かれており、各課所要時間の目安は2時間、全課終了までに要する時間はテストの12時間も含めて120時間となっている。1冊の教科書の中に2回のテストが含まれているが、本校では別のテストを中間用と期末用の2つ作り、教科書のテストは使わなかった。クラスによったが、クラスが3時間単位だったので、1時間半で1課を終え、3時間で一つのトピック(2課)を終えることができたため、1年目のコースでは、入門と初級1の5課まで使い、2年目のコースでは、初級1の6課から初級2の18課までの教科書を使用した。

4. 各教科書の長所と短所

『げんき』と『まるごと』の長所と短所について箇条書きで述べる。

4.1 『げんき』の長所と短所

長所

- 文法が英語で詳しく説明されている。
- 読む、書く、聞く、話すなど4技能の練習問題が豊富で、ペアワーク、グループワークなどもあり、コミュニケーション能力をつける練習もできる。
- 日本に留学し、ホームステイする米国の大学生がメインキャラクターで、大学生学習者に適している。
- 「会話・文法編」の他に長い文章を読む「読み書き編」もあり、会話力だけでなく、読解力など、バランスの取れた日本語能力を身につけることができる。
- げんきセルフスタディルームが充実している。
- テキストやワークブックの音声アプリの速度が変えられる。
- 英語圏の学習者の独学に適している。

短所

- ます形を使う期間が長すぎる（1-13）。辞書形の導入が遅い（14）。
- カラーページがない。白黒（朱）の絵や少しの写真のみ。
- 英語以外の言語での説明がないため、英語圏以外で使うのは難しい。
- 会話の訳がすぐに見れるようになっている。
- 敬語、謙譲語の導入が遅い。
- オンラインコースで教える場合、教室で教えるよりも時間が短くなるので、全てをカバーするのに時間がかかりすぎる。
- 「読み書き編」の漢字と「会話・文法編」の漢字がマッチしていない。

4.2 『まるごと』の長所と短所

長所

- 教科書が薄くできており、文法、漢字、練習などはオンライン上にある。
- カラー印刷で、写真やイラストが多く使われており、学習者にとって単語、文法、漢字を覚えなくてはならないという負担が少ない。
- 最初に「もじとことば」、「会話と文法」+「練習」、「読解」、「作文」と教科書に沿って教えればよく、教師の負担が少ない。
- 一つの語彙に絵やピッチアクセント、数ヶ国語訳がついた語彙帳が充実している。
- 英語だけでなく、スペイン語版、韓国語版、中国語版、ベトナム語版、タイ語版、インドネシア語版など英語圏以外の学習者にも使われている。
- 学習者がアウトプットを行う前にインプットが十分できるように設計されている。
- 教科書の会話に訳がついていないため、学習者が翻訳力を身につけられる。

- まるごとプラスやまるごとのことば、ひろがるなどのまるごと eラーニングのウェブサイトや Hiragana/Katakana/kanji Memory Hint などの無料アプリが充実している。

短所

- 入門と初級1では、各課で学習する漢字以外は全てひらがなで書かれているので、ひらがな、カタカナ、漢字の文中でのバランスが不自然で、漢字圏の生徒には向かないのではないかと。英語圏の生徒にとっても漢字を覚えるのが遅くなる。(例：卵をたべます 月よう日 7時かん など)
- 習った漢字もひらがなで書かれることがある。
- 入門、初級1、初級2と会話が全てます形で、辞書形の導入が遅い(初級1, トピック1、第2課)。
- 文法中心ではないため、文法の説明が大雑把で、教科書の説明だけでは、学生が理解できないこともあるので、独学用には適していない。
- 長所としても取り上げたが、教科書の会話に訳がついておらず、文法の説明も詳しくないため、教師の語学力や文法の知識がある程度求められる。
- 1つのトピックの中に2課あるので、混乱しやすい。課のみに変えて欲しい。

5. 学習者のフィードバック

1年生で『げんき』を使用し、2年生で『まるごと』の教科書を使用した学習者に教科書の感想を聞いてまとめてみた。

げんき

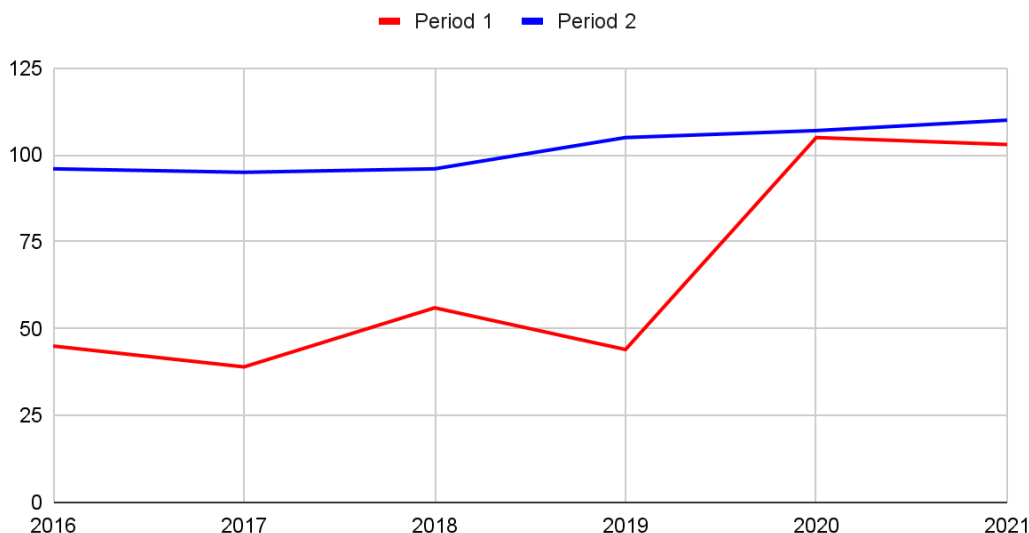
- たくさん文法が勉強できた。
- ウェブサイトが便利。
- 会話がユニーク。
- イラストがかわいい。
- 全ての漢字やカタカナに読み仮名が書かれているので、漢字やカタカナが覚えにくい。
- ワークブックの宿題が多すぎる。
- げんきIとIIを終了してもあまり、話せない。

まるごと

- ワードブック(語彙帳)が好き。
- eラーニングのビデオで話す練習ができた。
- 会話の速度が早くて、聞き取るのが大変だった。(音声ファイルの速度調節ができない。)
- カラフルな写真やイラストがたくさんあって楽しい。
- 会話を翻訳したり、毎週作文の宿題があるので、日本語の文を作りやすくなった。
- アニメを見て、意味がわかるようになった。

6. 学習者の推移

本校では、春夏コース（6単位）と秋冬コース（6単位）の2つの日本語コースが開講されている。学習者数の推移を表にまとめてみた。赤線が春夏コース、青線が秋冬コースを示す。春夏学期は、集中コースのため、5月から7月の3ヶ月で通常は半年で学ぶことを学ぶ。2019年に教科書を『まるごと』に変更してから、コロナ禍のオンラインコースでは、学習者数が倍増した。秋冬コースも「まるごと」に変えてから、春夏に比べて登録者数の変化は見られなかったが、途中でドロップアウトする学生が10人から20人くらい減少した。



学習者の推移（2016–2021）

7. まとめと今後の課題

コロナ禍でオンライン方式の日本語授業が主流となっているが、教師が一方的に教科書の文法を教え暗記させる詰め込み式の日本語教授法では生徒が退屈してしまうため、通用しなくなった。

これからは、学習者が携帯やパソコンの助けを借りながら、日本語で日本人とコミュニケーションを積極的にとりたいと自発的に日本語を学びたいようになるような教授法が求められる。

オンライン授業は通常の対面式授業に比べ、教える時間が短縮されているため、授業時間が週に三時間しかない本コースは、講義時間が限られている。

『げんき』は、CEFRのA2レベルに到達する24課を終了するのに200時間を要する。一方、『まるごと』は、A2レベルに到達するのに約120時間で済むようにデザインされている。そういった時間的観点からも本校では、教科書を『まるごと』に変更した。

その結果、特に、春夏の登録者数が倍増し、『げんき』を使っていたころによく見られたコース脱落者がほとんど見られなくなった。

各大学によって、先生の教え方や学習者の目的や動機も変わってくる。もちろん、全く教科書を使わない大学もあるが、使う場合は、教科書の選び方で、学習者の反応も変わることを念頭において、それぞれの目的にあった教科書選びを実践していただきたい。

参考文献

- 板野永理，池田庸子，大野裕，品川恭子，渡嘉敷恭子（2020）初級日本語『げんき』株式会社ジャパントイムズ出版
げんき第3版のご紹介 <https://genki3.japantimes.co.jp/intro/>
「『まるごと』って？」 <https://www.marugoto.org/about/>
- 来嶋洋美，柴原智代，八田直美（2018）『まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 りかい』株式会社 三修社
- 来嶋洋美，柴原智代，八田直美，今井寿枝，木谷直之（2018）『まるごと 日本のことばと文化 初級 1A2 りかい』株式会社 三修社
- 来嶋洋美，柴原智代，八田直美，木谷直之，根津誠（2018）『まるごと 日本のことばと文化 初級 2A2 りかい』株式会社 三修社